

むすびめ通信

Musubime works for the better society

Bible:エペソ人への手紙4:16



湯本沙友里 ニュースレター

Vol.017 2023年7月発行



いつもむすびめ通信をご覧いただきありがとうございます。

学習用品の寄付のお礼

前号で募集していました学習用品の寄付のお願いですが、多くの方にご協力いただいたことで今期に使う備品を揃えることが出来ました。情報をSNSで共有くださった方、社内に呼び掛けて集めてくださった方、支援金として送ってくださった方など、皆さんの暖かいお心一つ一つに触れる経験をしました。こんなにもエチオピアの取組みを気に掛けて応援してくださっている方がいることを知って感無量です。本当にありがとうございました。

お礼の動画をYouTubeにアップしました。
ぜひご覧ください。



6月1日にエチオピアに到着してから、あっという間に1カ半月経ちました。様々な計画が進んでいて感謝を感じる報告も沢山ありました。ただ今回は1件の緊急のご報告に絞ってお知らせさせていただきます。

アカコ村の現状

到着した日の朝、日本から寄付して頂いた学習用品を子どもたちに届けるため、輝く夢フリースクール(DTS)に早く行きたいと胸躍らせていました。DTSが始まって約2年半、初めは10名前後だった生徒たちも徐々に40名位までに増え、学費を納める通常学級への入学者数も100名近くになっていました。DTSが地域に信用され始めて、子どもに教育を受けさせたいと思う保護者が増えたという成果でもありました。

しかし教師のデレジェと会った時、驚くことが告げられました。私が到着する直前の5月末に政府の計画によってアカコ村で多くの家屋が取り壊され、その家々に住んでいた人々は立ち退きを命じられたというのです。「村に行くと驚くと思うけど、動揺しないように」と言われ村へ向かってみると、山を登るバスの車窓からは多くの崩壊した家が目に入ってきました。それは心が痛む光景でした。



なぜ村がこのような状態になったのかを、ウェブ報告用のデレジェのレポートからご紹介します。

報告者:デレジェ・ギルマ(Dereje Girma)
DTSプロジェクトマネージャー/教師
エチオピア、オロミヤ州



アカコ村の状況は2か月前とは一変しました。地域政府は首都アジスアベバを拡張して新首都を建設することを発表しました。新しい首都は現在のアジスアベバの4倍の規模に及びます。街の管轄下のすべての地域にはインフラが建設されるため、下準備として今のアカコ村の建物が合法かどうかを確認するための部署がつけられました。調査の結果、アカコ村に現在建っている家々の半分が「非合法」と宣言されました。

それによって、昔からの住民を除く人々はアカコ村を追い出され、家々は役所によって解体されることになったのです。結果として、地域住民の60%が立ち去りを余儀なくされました。私たちの学校は住民が減ると大打撃を受けます。96人の生徒で始まったのですが、半分以上の生徒たちが両親とともにこの地を去ることになりました。この状況は教師たちにとっても運営的にも大きな負担になります。学校継続のため、私を含む3名の教師が不必要になってしまいました。他の2人の教師たちが家族を養っていけるように、私は自らスタッフを辞任したのですが、この2人も契約を続けていくことが難しくなっていました。



7月からサマースクールが始まりました。

立ち去った人々の行方も気になりますが、残された学校と教育を求めているご家族に私たちがどのように寄り添うことができるかを考えなければいけません。デレジェはアジス市内での他の仕事の依頼もあったのですが、自分がいなくなるとフリースクールは終了となり、私立学校の運営も困難になることを理解していました。彼はこの状況下で困難を抱えている村の人たちと向き合いたい続けたいと、既に覚悟を決めている様子でした。ワクワクしながら到着した初日から、人々の生活がかかっている課題に直面しました。



エチオピアの年度末にあたる6月末には学校の卒業式と終業式が開催されました。デレジェが学校経営の状況を保護者たちに説明したところ、生徒数を増やせるように協力するので学校もフリースクールも続けてほしいという声が上がりました。先の不安がつきまとう中でD T Sの存在は、学校側にとっても地域の方々にとっても、心の支えとなって困難な状況を乗り越えようとする力になっているようでした。私もスピーチをさせてもらい、7月からのサマースクールでは仕事で忙しくなる皆さんや高学年の子どもたちをサポートするため(働く高学年が多いため)、幼児から低学年の子たちを預かる学童保育を兼ねたクラスを行うことと、一緒にこの困難な局面を乗り越えましょう、とお話ししました。日本にはアカコ村の子どもたちの存在を覚え続けてくれる人たちがいて、その支えによってD T Sサマースクールができることを伝えたと、皆さん励ましを受けた様子でとても喜んでいらっしゃいました。



卒業式での保護者への説明の様子

今年のサマースクールの定員数は予算と教員数との兼ね合いで40名を限度とし事前登録を行いました。1年目は10数名、2年目は30名前後でしたので、少しずつ増えていくことを想定していたためです。

連絡先

湯本 沙友里 Sayuri Yumoto

NGO「声なき者の友」の輪 所属
むすびめワークス 代表

Email: sayuri@karashi.net

WEB: <https://www.musubime-works.com/>
ホームページからも活動報告をご覧いただけます。



しかし初日には70名、1週間後には100名の子どもたちが通ってきました。普段学校に行けない子どもたちと私立校の通常学級や公立学校に通う子も含まれます。急きょ教室を一部屋追加で借りて教師も増やすことにしました。

幸いにも日本から学習用具の寄付やご支援がありましたので今回の備品は十分に満たされています。また購入費が削減できた分、今月は教室を追加での経費に充てることができました。しかし、エチオピアの物価はたった1年で倍近くに跳ね上がっているため、追加した部屋の家賃と教師への謝礼、そして継続することを考えて対応するには予算を考え直さなければいけず、今の状態では不十分なのが正直なところです。



この地域の方々は、支援に頼り切ることなく努力をし、改善策を講じようとする姿勢が見られます。それは学校やマネジャーのDerejeが私達の支援の意向をよく理解し伝え、良いコミュニティを築き上げてくれているからです。同時に、現地の方々のみでの努力だけではどうしてもできない貧困の現状や国の事情もあります。

そのような状況に対しては日本から私たちができることをもって手を差し伸べ、この地域の方々と一緒にこの局面を乗り越えられるように支え合えたらと願っています。今、皆さんからのご支援を必要としています。

年内のフリースクールを継続するために一カ月6万円ずつサポートする体制を目指しています。これからもご理解とご協力のほど、よろしくお願いいたします。

支援のための寄付方法

支援をもってご協力くださる方はお手数ですが下記の口座にお振込みください。報告はニュースレターにて随時お知らせしますので、配信ご希望の方はご連絡ください。

①ゆうちょ振替口座

口座番号：00830-9-137685

名義：湯本沙友里

他行等から 店名：〇八九店 当座 0137685

②ゆうちょ振替口座

口座番号：00180-0-300201

名義：FVI

★通信欄に「湯本 エチオピア指定」とご記入ください。

支援金はどちらの口座も同様に活動に関わる経費に充てられます。支援者の方へは年度ごとの会計報告をお送りしていますので、ご確認ください。

FVI名義の口座では湯本が所属する非営利団体「声なき者の友」の輪の税理士より監査を受けて年次報告いたします。